

じっくり心をこめて

スロー フード

78



イカと紫玉ねぎのマリネ

暑さ対策にぴったりのさっぱりとしたマリネはいかがでしょうか。

野菜も一緒に摂れるのでおすすめです。野菜は玉ねぎの他に、トマト・きゅうり・人参などでも合います。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材料 (4人分)

・イカ 2ハイ ・紫玉ねぎ 1個 ・七味唐辛子 少々

【A】

・酢 100cc ・砂糖 大さじ2 ・タカノツメ 少々

・塩コショウ 少々

作り方

イカは足と内臓を取り除き、熱湯に2～3分裏表を返しながらかつとゆでる。

を冷水に浸して皮をむき、水気をふき5mm位の輪切りにする。

【A】を煮立てて冷ます。

のイカを【A】に漬ける。

玉ねぎをスライスして、水にはなす。

水気を切った玉ねぎを と混ぜる。

せきかわ文芸

短歌

夏祭り淑やかに踊る(佐渡おけさ)
踊れぬ吾の心がをどる

須貝 恵美
(高田)

田の神の恵みを受けて穂揃いの
稲田は今朝の露に輝く

佐藤 庄七
(愛広苑)

夏空へ蔓からませて伸びてゆく
キュウリの生命見上げるばかり

小池 啓子
(下関)

蝉しぐれ未だ聞かぬなりさ庭辺の
草木にあまた空蟬みるに

渡辺千恵子
(上関)

数年の提案空し文芸欄後継^なを
目立つ減少

松田 栄一
(下関)

出征の亡父の墓石は苔も生え歲月たちし
盆の掃除に

山口 藤枝
(辰田新)





地域の教育振興に尽くした新野格夫さんは昭和七年八月二十日関川村南赤谷に新野三助の二男として生まれた。新潟県立村上高等学校を経て昭和二十八年

近・現代 関川郷の人びと

執筆者：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

新野格夫

（村上市坂町在住）

三月新潟大学教育学部小学校教員科を修了。昭和二十八年四月女川村立川北小学校教諭に採用され二年間意欲的に指導と研修に取り組んだ。昭和三十年四月関川村立土沢小学校に転勤。十一年間にわたって児童の指導に情熱を傾け教師としての力量を磨いた。その後村上立岩船小学校、東蒲原郡三川村立綱木小学校勤務を経て昭和五十二年四月から五年間、再び関川村立土沢小学校に勤務。同校は新潟県小学校教育研究会指定の「特別活動」の研究に取り組みの最中であつた。新野格夫さんは教務主任として率先して研究に参画・推進し、「生き生きと取り組む子供を育てる学級活動」の主題のもとに、その成果を県の内外に発表した。昭和五十七年四月村上立大栗田小学校教頭に補され三年間勤務の後、昭和六十年四月村上立瀬波小学校に転勤。四年間教頭の職務に精励した。平成元年四月関川村立土沢小学校長に補せられた。同校勤務は三度目で地域の事情に精通していたこともあつて意欲的な学校運営を展開。特に健康教育、環境教育に力を注ぎ多くの実績を上げた。そして平成三年四月から二年間荒川町立金屋小学校長を務め、平成五年三月三十一日定年退職した。

平成八年七月荒川町教育委員会教育長に任命された。いじめ・不登校問題に真剣に取り組むと共に、「グリーンパークあらかわ総合運動公園」の建設や荒川町立保内小学校の改築に力を尽くした。七年五ヶ月にわたって地域教育の充実発展に尽力した功績は大きい。

新野格夫さんはスポーツマンで特に野球を愛好し、昭和二十八年より「関谷クラブ（関川クラブ）」のキャプテンを務め、昭和四十年まで選手として活躍。また岩船郡野球連盟理事長をはじめ各種の野球連盟役員を歴任すると共に新潟県高等学校野球連盟審判員を務め、野球の振興に尽くした。

また平成七年九月一日東京深川区の明治、明治第二両国民学校と地元関係学校の学童疎開五十周年記念交歓・交流会が開催された。翌年三月再会を記念する文集「万感の思いを胸に」が新野格夫編集委員長のもとで刊行された。疎開時の記憶を永遠に残した功績は大きい。新野格夫さんは教育振興に多大な貢献をし、現在も村上市坂町区の役員として活躍している。

新野家の系図

初代 左馬助……三助

格夫 楨

容介

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

久々の多き雨得し夏木立
渡辺しづい

病床で梅雨の激しさ驚きぬ
佐藤 ノブ

分け迷う初鮎一尾藍の皿
五十嵐貞子

華やぎの声おちこちに夏芝居
渋谷 くに

冬瓜や二つに切りて配りけり
青木 慶一

球児等の汗が弾ける甲子園
南 セツ

せきかわ川柳会作品「地図」「笑う」

我が国は児の手ひとつに隠される
渡辺しづい

躓いた自分を笑う一人言
南 セツ

かなかな蝉が時を知らせて飛んで行く
本間 イミ

大笑いストレス飛ばす健康法
平田 千恵

歩きたし歩行器頼りの細き足
佐藤 ノブ

訂正とおわび

先月号に掲載した自治功労者表彰の氏名で感謝状を授与された「鈴木芳江さん」は「鈴木芳枝さん」の誤りでした。また、戸籍の念に掲載した川鍋幸弘さんの集落は「鮎谷」ではなく、「金俣」の誤りでした。おわびして訂正します。